



平成30年1月31日
海上保安庁

マレーシア海上法令執行庁との連携訓練の実施について (結果概要)

～インド太平洋地域の海上保安機関との連携強化のために～

1月29日(月)、マレーシア・クアンタン沖で海上保安庁とマレーシア海上法令執行庁との連携訓練(海賊対処訓練等)を実施しました。同訓練には、平成29年に日本政府が供与した巡視船パカン(旧名:えりも)をはじめ、双方の船艇・航空機が参加しました。

海上保安庁では海賊対策を目的とし、平成12年から毎年東南アジア海域等に巡視船・航空機を派遣しており、マレーシアへの寄港は9回目、マレーシア海上法令執行庁(MMEA)との連携訓練は3回目となります。

今回は、1月25日(木)から31日(水)までの間、MMEA・海上保安アカデミー(AMSAS)※が置かれるクアンタンに寄港しました。寄港期間中、同施設においてインド太平洋地域の海上保安機関職員を対象とした交流プログラムも実施されました。

これらにより、海賊対処にかかる連携をはじめとした日・マレーシア間の協力関係がさらに深まるとともに、インド太平洋地域海上保安機関間の連携・協力関係の更なる強化が期待されます。

※AMSAS・・・クアンタンに所在するMMEAの訓練・研修施設であり、正式名称はスルタン・アフマド・シャー・海上保安アカデミー。日・マレーシア両首脳による「戦略的パートナーシップについての日・マレーシア共同声明」(平成27年5月)において、同施設を含むMMEAへの支援について言及。

1. 連携訓練

(1) 訓練内容

- ・海賊対処訓練
- ・情報伝達訓練
- ・ボートを利用した救助訓練
- ・両機関ヘリコプターによる相手機関所属船への着船訓練

(2) 参加勢力

- ・海上保安庁 函館海上保安部所属 巡視船つがる(ヘリコプター1機を含む)
- ・MMEA 船艇3隻、航空機3機

(3) その他

JICA課題別研修「救難・環境防災」コースのフォローアップに参加中のインドネシア、フィリピン、ベトナム、マレーシア、スリランカの海上保安機関職員も今回の訓練を見学。

2. AMSASでの交流プログラム

日・マレーシア海上保安機関職員間の共有認識及び相互理解を深めるため、以下の交流プログラムを実施。

- ・公益財団法人海上保安協会栗谷事務局長による巡視船つがる及び巡視船パカン乗組員等を対象としたリーダーシップに関する講義
- ・巡視船つがる乗組員とMMEA職員による相互訪問等



「つがる」・「パカン」両船長



「つがる」船上での
オープニングセレモニー



海賊対処訓練
(MMEA職員による制圧の状況)



海賊対処訓練
(「つがる」及び両機関ヘリコプター)



「つがる」船長によるAMSAS表敬訪問



海上保安協会栗谷事務局長の講演